

イカダモの仲間を顕微鏡で観察すると、教科書などでよく紹介されるのは、4 個の細胞が筏のように横一列に並んだ姿です。このような、一定の規則に従って複数の細胞がまとまった群体を「セノビウム（定数群体）」と呼びます。写真左の個体も典型的な 4 細胞のセノビウムで、細胞どうしが密着して整然と並んでいる様子がよく分かります。

ところが、たくさんの個体を観察していると、すべてが 4 細胞とは限らないことに気づきます。写真右には、わずか 2 細胞からなるセノビウムが写っています。両端には長い棘、いわば「ヒゲ」が伸びており、4 細胞型と共通する特徴を備えています。イカダモ類では 2、4、8 個など、2 の累乗の細胞からなるセノビウムを形成することがあり、細胞数が違うだけで直ちに別種とは判断できません。

これは、セノビウムが母細胞の中で細胞分裂によって作られることと関係しています。完成した群体に後から細胞が一つずつ加わるのではなく、娘細胞が 2 個、4 個、8 個などに分裂し、それぞれが一組のセノビウムとして外へ出てきます。今回のビオトープの水では 4 細胞型（four-celled coenobium）が圧倒的に多い一方、2 細胞型や、まれに 8 細胞型も観察できました。「イカダモは 4 細胞」と覚えるだけでは見えてこない、生物の形の多様性を実物で確かめられる興味深い観察です。

（2026 年 9 月上旬／東京都北区のビオトープ産）

